

かわさきプラネタリウム同好会が行った第15回プラネタリウム番組発表会の報告

中村陽平*

The report on the 15th Planetarium Program Presentation hosted by Kawasaki Planetarium Club

Yohei Nakamura*

はじめに

2025年6月1日(日)、かわさき宙と緑の科学館プラネタリウムにて、かわさきプラネタリウム同好会で作成した番組の発表会を実施した。その発表会について報告する。

かわさきプラネタリウム同好会による投影について

かわさきプラネタリウム同好会(以下、同好会)は、かわさき宙と緑の科学館(以下、科学館)主催で実施された、2014年度プラネタリウム番組製作教室の参加者有志により、2015年に発足した。

本会は「かわさき宙と緑の科学館の事業に協力し番組制作を行うことを主な目的」と会則で定めており、定期的にプラネタリウム番組を企画・作成し、発表投影を行っている。そのための活動として、月1回の定例会と科学館プラネタリウムでの投影練習を実施しており、必要に応じて投影練習を臨時で行う場合もある。

2016年3月20日の投影を初回とし、今回で15回目の発表投影となった。同好会は科学館の依頼により、多摩区民祭での無料投影を実施しているが、こちらは発表投影の回数に含まない。

発表投影では、チケットの配布、来場者の誘導、投影時のMEGASTAR-III FUSIONの操作など、すべて同好会会員が担当した。

投影番組について

第15回の投影では『特徴的な星の並び「アステリズム」を見よう』と題して投影を行った(図1)。

開場は一般投影の終了後16:00から行い、投影は16:10から40分間で、科学館が閉館となる17:00には完全撤収できるように実施した。定員は一般投影と同じく200名とし、科学館内に特設受付を設営し、整理券を配布した。また、入場料は無料とした。

投影に参加した同好会会員は、投影に4名、誘導や案内に5名の計9名であった。



図1. ポスター、チラシ

投影番組の内容詳細

本投影は第14回投影後である2024年12月より企画した。

川崎では光害により暗い星が見えず、一般的に知られている星座は見つけにくい。また、星座を見つけるためには星の並び方などの知識も必要である。しかし、星空を眺めて楽しむためには、必ずしも光害の少ない暗い空や星座の知識が必要ではない。科学館プラネタリウムに通う中で、明るい星の並びを見つれたり明るい星同士を結んだりするのみでも十分に楽しむことができることを知り、実際に川崎の空で確かめた。

この明るい星の並びや明るい星同士の結び方はアステリズムと呼ばれている。アステリズムを知ること、星空の楽しみ方が広がることを伝えるため、アステリズムに特化した番組とした。

投影の流れは以下のとおりである。

- ①日の入り
- ②春の星空の紹介
北斗七星、春の大曲線、春の大三角
- ③アステリズムの説明
②の結び方がアステリズムであること
欧米の春の大三角、春のダイヤモンド
- ④クイズ オリオン座の結び方(図2)

*かわさきプラネタリウム同好会 Kawasaki Planetarium Club

- 星座線の結び方が決まっていないこと
- ⑤星座とアステリズムの違いの紹介
 - ⑥クイズ 古い星座の紹介 (図 2)
 - 古い星座がアステリズムとして扱われることがあることを、ねこ座を題材に
 - ⑦春のアステリズムを紹介
 - ①③に加え、ししの大鎌、富士など
 - ⑧夏のアステリズムを紹介
 - 夏の大三角、釣り針、南斗六星など
 - ⑨秋のアステリズムを紹介
 - 北十字、秋の四辺形、秋の大三角など
 - ⑩冬のアステリズムを紹介
 - 冬の大三角、冬のダイヤモンド、オリオンのベルト (三ツ星)、オリオンの短剣 (小三ツ星) など
 - ⑪日の出 星座線の紹介
 - 星座線でのつなぎ方が決められていないためアステリズムとして扱えること

季節を変更する際には、自身でアステリズムを探す時間を設け、少々見つけにくいアステリズムも紹介した。



図 2. クイズの様子

投影番組の広報

- ・同好会の公式ブログでの告知記事投稿
- ・生田緑地内のポスター掲示および科学館内のチラシ設置
- ・タウンニュースへの告知記事掲載
- ・応援ナビ川崎へのイベント記事登録
- ・多摩区役所でのチラシ配架
- ・当日、同好会会員による科学館内放送と生田緑地内でのチラシ配布

投影番組の結果

参加人数は一般参加者 158 名と過去最多であった。

アンケートを実施し、回答数は 41 件であった。結果は次の通りである。

- ①楽しめたか？ (5 段階)
 - 5、4 : 39 件 3、2、1 : 2 件
- ②わかりやすかったか？ (5 段階)
 - 5、4 : 36 件 3、2、1 : 5 件

- ③面白かった箇所・感想 (抜粋)
 - ・アステリズム＝星座線というわけではなく、これだという決まりがないこと
 - ・アステリズムが世界共通ではないこと
 - ・季節毎の説明でわかりやすかった
 - ・星座との違いもわかって良かった
 - ・たくさん星の結び方がわかり、子供たちと夜空で星を見る楽しみが増えそう
 - ・恒星の数だけアステリズムの楽しみ方があるのだなと感じ、自分でも作ってみたいという気持ちになった
 - ・同好会があることを知らなかった。次の企画もまたみてみたい

投影番組の結果の分析

5 段階評価では、高評価が多数ではあったが、低評価の回答もあった。文字を出すことを控えていたため、口頭説明だけでは伝わりにくい箇所があったと思われる。

感想に関しても好評なものが多く、意図していたことが伝わったと感じた。同好会について初めて知ったという声も寄せられ、認知度の低さを実感した。

今後に向けて

本投影は、投影時の大きなミスなどもなく実施できたが、作成過程ではもう少し作業を分担したり早めに共有できたりすればよかったなどの課題も見えた。今後の作成にも活かしていきたい。

同好会は 2026 年で 10 周年を迎える。いまだ知名度が低いので、広報にも力を入れたい。また、同好会として、今後も番組作成などの活動を続けるにあたり、同好会として伝えたい内容を、科学的に正しい表現を用いて、わかりやすく伝えられるよう工夫していきたい。

謝辞

本投影の作成に当たり、科学館職員の皆様のご協力を賜りました。また、投影内容について、同好会会員に多くの助言を受けました。坂上双さんには素敵なねこ座のイラストを描いていただきました。ここに深く感謝申し上げます。

また、天文にかかわるきっかけを作ってくださった方、活動を応援していただいた方々にもこの場を借りて感謝いたします。ありがとうございました。